



胎内回歸

10月31日

Sudden Fiction Project

高階經啓
hirotakashina

10月31日のおはなし「胎内回帰」

うたたねから醒める。目尻のあたりが熱く、指で触れると涙を流していたことに気づく。何の夢を見ていたのだろう。悲しい夢？ あるいは懐かしい夢？ 失った者達と再会するような。亡き妻と娘たちと。でもいま気持ちは穏やかで、ただ涙だけがまだ熱く頬を伝っている。

音楽はまだ鳴っていて寝過ぎたわけではないことがわかる。起きあがり、チューブから水を吸い出し口に含み、小さく声を出す。それからマイクのスイッチを入れて話し始める。窓から下界を見て、そこに今まさに朝が訪れようとしているのを確認して。

おはよう、世界。おはよう、地球。聞こえますか。上空からSAMAがお送りしている空賊ラジオ「胎内回帰プロジェクト」のお目覚めだ。そっちは目覚めてますか？ ぼくもたったいま目を覚ましたところだ。どのくらい寝たのかな？ たぶん1時間くらい。音楽が途切れずにまだ鳴っていたからね。うん。ちょうど1時間くらい。

今日は何の話をするよ。ちょっと待って。みんなからのメッセージを確認するよ。うん。ほほう。すごい数だな、こりゃ。半年前にこのプロジェクトを始めたときは、聴取者からのメッセージなんてぼくの知り合いからしか届かなかったんだけど。カタールのマジュディーラさん、いつもお便りありがとうございます。ぼくの声はアラビア語でもぼくの声みたいに変換されているのかな。

あ、最初にこんなことが書いてある。SAMAはいつもカタールってどこだっけって言うから先に言うとドーハが首都の国だ。なぜかSAMAはドーハは知っているみたいだからね、だってさ。そうなんだよ。カタールって聞くといつもどこか高い高いヒマラヤ山脈あたりのどこかか、南米のアンデス山脈あたりのどこかを思い浮かべてしまうんだ。でもドーハと聞けば間違えようもない。なにしろ「ドーハの悲劇」のドーハだからね。って言っても、このネタは日本人以外には全く通用しないんだけど。

マジュディーラさんのメッセージの続きを読もう。今日は不思議なものを見た。蜃気楼の一種なんだろうと思うが、間違いなくそれは壮麗な宮殿だった。もちろん砂漠のそっちの方向には都市も何もない。そのまま何十キロも先で海にいたるだけだ。でもすごい眺めだった。観ていると胸が苦しくなるようだった。SAMAのいるところから見えなかったかい？ うん。マジュディーラ、見えたよ見えたとも。その宮殿は君を迎え入れるために用意された宮殿だ。その宮殿にふさわしい人になっておくれ。

ああ。そろそろぼくはまさにヒマラヤ山脈に差し掛かろうとしているみたいだ。相変わらずしわくちゃだよ。この季節は氷河が後退するのちよっと地面がむきだしの所も増えてくるし、余計にね。スタジオの底をガリガリひっかけそうな気もするけどもちろんそんなことはない。うん。チョモランマにアタック中のスペイン隊からもメッセージを貰っている。ありがとうございます。君たちがどれなのか見分けはつかないけど、たぶんあの辺にいるんだろうって思いながら見ているよ。リクエストにお応えして「バルセロナ」をかけよう。あの曲、ここぞって時に聞くと盛り上がるもんね。無事の登頂を祈るよ。下りるときこそ肝心だって言うから下山するまで気を抜かずにね。

フレディ・マーキュリーとモンセラート・カバリエの「バルセロナ」をかけると、ぼくは椅子に身を沈める。本当はもっと運動をしなくては地球に戻ったときに大変なことになるのはわかっているのだが。生来無精なのでなかなか運動をしない。筋肉も弱ったし、きっと骨ももろくなっているに違いない。即席宇宙人というわけだ。でも演奏のために上半身はよく使っているから、とりあえず上半身は大丈夫だろう。この曲が終わったらちょっとライブで弾こう。

「子宮」と名付けた個人用人工衛星から送る個人放送。1年間リスナーからのメッセージとやりとりするだけ。好きな音楽を流し、気が向けば演奏する。人数は少ないけれどリスナーは全世界にいる。もの好きなファンが調べてくれたところたぶん20万人くらい。それはすごいことだ。20万人が時折空を、宇宙を見上げたりしながらぼくの放送を聞いてくれているなんて。

始める前には、そんなことをすると孤独で癡狂するだろうと忠告された。でも大丈夫。半年経

ったけどぼくはまだ大丈夫。ここに来てよかったんだと思う。もしもあのまま地球にいたら、ぼくは本当に狂ってしまっていたから。愛する者の一人もない暗い家で目覚めるなんて生活、ぼくには続けられなかったから。いまぼくはここにたった一人だけど、同時にぼくは地球に直結している。軌道の上をぐるぐる回りながら世界中の人に回路を開いている。

そうこれは、ぼくがもう一度地上で生活し始めるまでの1年間のうたたねなんだ。

(「うたたね」 ordered by こあ-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたならぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブックログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ほくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

胎内回帰

<http://p.booklog.jp/book/35369>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35369>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/35369>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.